

〔全体の評価講評：通所介護（デイサービス）〕

《事業所名：渋谷区ひがし健康プラザ高齢者在宅サービスセンター》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者の声を反映した個別プログラムを提供し、主体的に好きな活動ができるようにしている
	内容	月1回、イベント委員会を開催し、利用者がやりたいことができる個別プログラムについて討議している。利用者の声を聞き取り、利用者自身が主体的に好きなプログラムを選び、参加できるようにしている。例えば、調理サークルでは、利用者に役割を持ってもらい、利用者主体で進めていけるよう、職員は陰から支援している。「とことこクラブ」では空き時間を利用し、座りっぱなしにならないよう歩く機会を作っている。利用者調査では「お陰さまで認知症の進行がおそいような気がする」との声が寄せられていた。
2	タイトル	月1～2回以上、介護者教室を開催し、地域住民への貢献活動を行っている
	内容	月1～2回、当事業所主催で「介護者教室」を実施している。参加者10～20名で、口腔ケア、介護予防体操、転倒予防、ヨガ体操、移乗介助、ハンドケアについての内容である。講師は自事業所の職員だったり、専門家を招聘している。地域の高齢者の方々が健康に生活できることを目的としている。特にヨガ体操は定員を上回る20名の方が参加し、満員御礼であった。実施後はアンケートも行き、改善につなげている。
3	タイトル	新人職員への育成体制が充実している
	内容	新入職員の育成に関しては「新人指導基準書」を作成し、育成担当職員の指導方法が人によって異なることがないようにしている。育成にあたっては3か月で一人立ちできるようカリキュラムを組み、毎日、業務終了後に学んだこと・実施したことを育成担当者と話し合い、必要な助言・指導を受ける仕組みを構築している。また、育成担当職員に気軽に質問できるよう雰囲気をつくっている。また新たにプリセプター制度を導入し、スーパーバイザーとして助言、指導を行なっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	ケアマネジメントの流れをマニュアル化し、その理解の浸透が望まれる
	内容	通所介護計画書作成にあたっては、利用者一人ひとりに対して、カンファレンス担当を配置した上で、職員をチーム分けし、チーム内カンファレンスを行い、その後、全職員で利用者個々の計画書を確認している。しかし、職員アンケートでは「アセスメントから計画書作成までの流れがよくわからない」という声が寄せられていた。今後は、これらの計画書作成の流れをマニュアルにし、ケアマネジメントについて職員の理解を深めていくことが望まれる。
2	タイトル	利用者にとって快適な生活環境に向けたさらなる取り組みが望まれる
	内容	当事業所は区立施設の一角にあり、デイルームから街路樹が見えるなど立地条件は良く、また区立施設であることから健康プラザ全体で清掃を業者委託していることから共有スペースは隅々まで清掃が行き届いている。その一方、デイルーム内に洗面台が1か所しかないので、到着後の手洗い・うがいが待ち状態である。また評価員の訪問時、窓側の辺りに物品が煩雑に置かれていた。利用者にとって快適な生活環境について、職員全員で話し合い、その改善に取り組まれることが望まれる。
3	タイトル	業務効率のさらなる推進が望まれる
	内容	区立施設であることから、一定の時間の退社が決められていることから残業時間にも限界はあるが、それでも職員アンケートではさらなる改善点として事務作業の合理化や業務効率化をあげる職員が少なくなかった。業務を細分化し、職員個々の分担を決め、仕事の責任を明確化しているが、今後は業務効率を目的に仕事の重複がないかなど業務分析を行い、業務効率の促進が望まれる。